

東海市立三ツ池小学校 住 所 東海市加木屋町鎌吉良根9 電話番号 0562-34-6313 児童337 校長名 中山 律子 クラス16学級(内 特支4)		○教育目標 学ぶ(知) 行う(徳) 鍛える(体) ○地域の特徴 三ツ池コミュニティや学校支援協議会、PTAや地域の福祉施設などによる学校教育への支援がとても充実している。
--	--	--

中期目標	今年度の目標	評価方法(アンケート項目)	結果の分析	課題と改善策	学校支援協議会評価【実施日】令和6年2月8日	次年度の改善策(誰が何をどうする)
知	○ 「教員は授業で勝負」を合言葉に、全教職員で、特に児童の学習に対する関心や意欲を高めるような教育実践研究に取り組むことによって、授業力をさらに向上させる。 ○ 児童が習得した知識・技能を活用する場面で設定されている授業、各場面における指導者としての意図が明確である授業、単元を見通して構築してある授業をすることによって、子どもたちを主体とした「わかる授業」「楽しい授業」を実践する。	○ 授業に関する児童・保護者・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 【児童9～13】 「楽しさ」「内容の理解」「教員の熱心な指導」「発表」「意見の聞き取り」 【保護者11】 「分かりやすい授業の実施」 【教職員10・11】 「児童を主体とした『わかる授業』『楽しい授業』の実践」 「児童の関心や意欲を高める授業の工夫」 ○ 令和5年度末に実施した「教研式教育・心理検査(CRT)」の結果を分析する。	○ 授業に関する児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童9】 78% 78% 【保護者11】 87% 88% 【児童10】 89% 85% 【教職員10】 96% 95% 【児童11】 93% 88% 【教職員11】 100% 100% 【児童12】 68% 61% 【児童13】 95% 92% 児童の回答結果は、「発表」に関する項目が大きく減少しており、発表に対して苦手意識をもつ児童が多い傾向となっている。これは、コロナ禍で話し合いなども積極的に実施できていなかったため、声に出して発表することに自信がもてない児童が多くいると考える。 しかしながら、保護者や教職員の回答結果は高い水準を維持しており、教職員が本校の現職教育の方向性を理解して取り組んだり、保護者が授業参観等を通して、本校の教育活動に安心できたりした結果であると考える。 ○ 「教研式教育・心理検査(CRT)」の結果は、国語・算数共に、すべての学年において、得点率が全国比を超える結果であり、学力は十分に定着していると考ええる。	○ 「発表」に関する苦手意識を払拭するために、例えば、タブレット端末で自分の考えを伝えることも発表として捉えるなど児童の「発表」に対する意識を変えていく必要がある。ただし、コロナ禍以前のように意見を聞き合うような発表形態も授業の中で実施することも、児童の伝え合う力向上につながるため、次年度の現職教育でも「発表」に関する内容を取り上げるなど、全校体制で児童の「発表」に対する苦手意識を払拭できるようにしていきたい。 ○ 保護者の授業に対する回答結果も高い水準を維持できているため、次年度も本年度と同様に各学期1回の授業参観を実施したり、学校だよりで現職の取組について継続して伝えたりしていくことが必要だと考える。	○ 発表に関する数値は低下したかもしれないが、授業に対して「わかる」や「先生が熱心」と児童が思っているのはとても素晴らしいことである。現職教育の努力が伝わる結果だと考える。 ○ 課題に対して学校が既に研究テーマの変更等、対策を考えているため、しっかり実施できるように準備をしていくのが大切だと考える。 ○ 意識調査だけではなく、実際の学力調査でもよい結果が出ているのは、授業力向上を目指して取り組んできた成果だと考える。	○ 現職教育主任を中心に、現職教育のテーマを変更したり、自分の思いや考えを伝え合う「発表」方法について様々な形態を提案したりするなど、全学級が共通認識のもと、取り組むことができるようにする。 ○ 現職教育のテーマ変更に伴い、次年度の学校評価アンケートの質問項目の変更についても、現職教育の内容に合わせて今年度中に見直しをする。 ○ 今後も分かりやすい授業を実施していると保護者に理解されていくために、学校として年間計画に授業参観を各学期1回程度設定する。
徳	○ あいさつ・返事など礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接する態度を育てる。 ○ スリッパの整頓など、よく考えて行動し、進んでみんなのために働こうとする態度を育てる。 ○ いじめはどの児童にも起こりうるものであり、誰もが被害者にも加害者にもなりうるという認識のもと、いじめは絶対に許さない、見過ごさないという姿勢で指導にあたる。	○ 児童・保護者・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 ・ あいさつ・返事に関する項目 【児童2・3】 「あいさつ」「呼名時の返事」 【保護者5】「家庭内でのあいさつや返事」 【教職員14】 「あいさつや返事に対する具体的な方策」 ・ スリッパの整頓等に関する項目 【児童4】 「自分のくつや自分のいたトイレのスリッパ」 【保護者8】「はきものをそろえる習慣」 【教職員15】 「はきものをそろえるの具体的な方策」 ・ いじめ防止に関する項目 【児童20～22】 「他人への悪口」「友達や下級生に対する言動」「いじめ発見時の言動」 【保護者18】「いじめのない学校づくり」	○ 「あいさつ・返事」「スリッパの整頓等」「いじめ防止」に関する児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 ・ あいさつ・返事に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童2】 87% 81% 【保護者5】 80% 80% 【児童3】 78% 75% 【教職員14】 92% 95% ・ スリッパの整頓等に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童4】 94% 90% 【保護者8】 46% 45% 【教職員15】 84% 90% ・ いじめ防止に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童20】 86% 80% 【児童22】 78% 75% 【児童21】 93% 93% 【保護者18】 83% 82% 児童の回答結果は、「あいさつ・返事」「スリッパの整頓等」に関する項目が若干、減少している。これは昨年度、大きく向上したこともあるので、高い水準ではないが現状維持と捉えている。ただし、いじめ防止の「他人への悪口」に関する項目については、数値が減少し、否定的な回答をしている児童が高学年全体の2割を占めているということに学校として危機感を感じている。	○ 「あいさつ・返事」「スリッパの整頓等」に関する項目について、児童用の回答結果は減少しているが、昨年度に比べ総務委員会による「方言あいさつ運動」や生活委員会による「トイレのスリッパ整頓チェック」など「主役は子ども」を合言葉に主体的に委員会活動を展開できているので、次年度も継続していくことが必要だと考えている。また、「スリッパの整頓等」については、保護者の回答結果は昨年度同様、低い水準であるため、学校での指導を家庭でも同様にお願ひできるようにしたい。 ○ 「いじめ防止」の「他人への悪口」に関する項目については、高学年の2割にあたる児童が否定的に捉えていることは大きな課題である。次年度の道徳教育に関する重点目標を「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「友情、信頼」に設定し、教科だけでなく教育活動全体で児童を指導していく必要がある。	○ 民生委員・主任児童委員のあいさつ運動のときにも、児童のあいさつする声はよく聞かれる状況であるし、地域住民の数値は向上しているため、下がった数値に一喜一憂する必要はない。 ○ 「スリッパの整頓等」に関する項目は、児童も含めた学校側と保護者側の思いに乖離が見られる。ただし、学校では整理整頓をしようとする児童が育っていることはよいことであり、家庭は児童にとってもリラックスできる場所として親任せになっている部分は仕方ないと考える。 ○ 他人への悪口の数値は低下しているが、友達や下級生に対して親切にしている児童の言動を適切に称賛し、よい言動の連鎖が学校全体で起きるようにする。	○ あいさつ・返事については、今年度の特別活動指導部と学習指導部の取組を継続し、数値の低下が一過性のものかどうかを検証する。 ○ 家庭でも更にスリッパの整頓が習慣化しよう生活委員会担当者がブログで学校の様子を紹介したり、教頭が学校だよりで家庭での児童に対する声かけを今後も依頼したりする。 ○ 道徳教育に関する重点目標を「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「友情、信頼」に設定し、教科だけでなく教育活動全体で心の教育を展開していく。 ○ 友達や下級生に対し、親切に接している児童は多いため、そのような児童の言動を適切に称賛し、よい言動の連鎖が学校全体で起きるようにする。
体	○ 日常および行事前後の健康観察を徹底し、事故の防止・感染症・不登校傾向など心身の問題の早期発見と予防に努める。 ○ 児童の発達段階に合った運動の実践を通して、基礎的な身体能力を身に付け、運動の楽しさや喜びを味わわせられるようにする。	○ 保健室のけがの記録、長欠児童記録等から児童の心身の状況について、昨年度の来室記録と比較して評価する。 ○ 本年度の体力テストで体力賞Aを獲得した5・6年児童の結果と昨年度を比較することで、児童の体力がどのような状況にあるか分析をする。	○ 内科的・外科的な保健室来室児童の昨年度と本年度の状況は以下のとおりである。 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【内科】 213人 258人 【外科】 534人 739人 ※12月末時点の数値 本年度については、昨年度と比較すると内科・外科共に増加している。外科については、外遊びでの怪我が多く、コロナ禍前のように思い切り外遊びを楽しむ児童が増えていることが影響している。内科は微増ではあるが、登校渋りの児童も増加傾向にあるため、気持ちの面によるものかどうか今後も注視する必要がある。 ○ 体力テストについては、5年生は学年の約3割の児童が体力賞Aを獲得するなど基礎的な身体能力が身に付いている児童が多い。6年生も昨年度に比べ、体力賞Aを獲得する児童が増加し、全体をとおしてよい結果であったと考える。 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【5年】 5人 14人 【6年】 11人 8人	○ 元気に外遊びできる状況はよいことと捉えているが、怪我の増加は遊び方の問題とも言える。折に触れて学級活動の時間、遊び方について児童と確認することで、未然防止につながる。また、様々な機会に情報交換を実施し、学校生活に不安を感じている児童の早期発見に努めていきたい。 ○ 体力テストの結果からは課題は見当たらないが、なわとび運動の達成者など、次年度は別視点で児童の身体能力の状況を把握する必要もあると考える。	○ 外科のけがも多くなっているが、コロナ禍前のように、元気に遊ぶ子が多くなった証拠でもあるし、体力テストの結果もよいので、安全に気を付けて、これからも元気に外で遊び、体力向上にもつなげてほしい。 ○ 不登校傾向の児童は少しずつ増えているのは気になるので、心の教育も含めて、学校の取り組みに期待したい。	○ 体力テストの結果は十分に満足できる内容ではあるが、すべての児童の体力向上を把握するため、次年度はなわとび運動の記録達成者数の増減を比較し、検証していきようにする。 ○ 登校渋りの児童が増加する新年度当初に家庭と連携して、児童の心の状況を適切に把握できるようにする。また、本年度、不登校傾向のあった児童の引継ぎを今年度中に実施する。
地域連携	○ 「誠意はスピード」を合言葉に、保護者や地域の方の声に、迅速かつ誠意をもって対応する。 ○ 「情報は毎日発信」を合言葉に、ホームページ等によって、子どもたちの学校生活の様子を積極的かつ定期的に発信する。 ○ 保護者や地域の方へ発出する文書をより分かりやすく、かつ、形式をととのえたものとする。	○ 保護者・地域住民・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 ・ 学校の印象に関する項目 【保護者・地域住民1】「よい学校」 【教職員1】「誇れる学校」 ・ 学校の情報発信に関する項目 【保護者2・3】 「知りたい情報」「ブログ・通信の閲覧」 【地域住民3・4】 「学校の様子」「ブログ・通信の閲覧」 【教職員22】 「ブログ・通信による情報の積極的公開」	○ 学校の「印象」「情報発信」に関する保護者・地域住民・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 ・ 学校の印象に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【保護者1】 97% 97% 【教職員1】 100% 100% 【地域住民1】 100% 100% ・ 学校の情報発信に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【保護者2】 95% 93% 【地域住民3】 100% 95% 【保護者3】 77% 80% 【地域住民4】 63% 70% 【教職員22】 100% 100% 学校の印象・情報発信に関する項目は、昨年度と同様のよい状況が続いている。これは教職員が地域行事に参加したり、教頭がコミュニティの会議の場でPR活動したりした成果だと考える。	○ 地域住民のブログ等の閲覧に関する項目についても改善傾向にあるため、次年度も引き続き、以下の内容に取り組む。 ・ 地域の行事に参加した際もブログ等でその様子を発信し、行事の場でも地域住民に伝えることで、ブログ等に対する地域住民の意識向上につながるようにする。 ・ コミュニティ会議の場で、ブログ等の閲覧方法を教頭が地域住民に説明をする。 ・ 環境整備ボランティアの活動機会を増やし、地域住民が学校に来校できる機会を増やす。	○ 三ツ池コミュニティ事務局も、たくさんの教職員や児童がコミュニティ主催の行事に参加してくれることを喜んでいる。 ○ 学校の環境整備もだが、ミシンボランティアなど学習支援系のボランティア活動を楽しみにしている高齢の方もいるため、閲覧版などを利用してPRしていくと、学校と地域のつながりが更に強くなり、次年度からのコミュニティ・スクールの取組にもつながると考える。	○ 次年度も三ツ池コミュニティの行事に教職員が参加できるよう勤務の割り振り変更など、参加しやすい体制も構築していく。 ○ ミシンボランティアなど学習支援に関するボランティアも、個人情報に留意した上で、実施を検討する。その際、学校だよりによりボランティアの内容を掲載し、地域の閲覧版に掲載するなど、保護者だけでなく地域住民への案内も積極的に行い、地域との連携を強化していく。